

13 研究・調査事業

今後の食品健康影響評価の基礎資料とするために、研究・調査事業を行っています。

食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査

食品安全委員会は、リスク評価の実施又は評価方法の指針等の策定に必要なデータ及び知見等を得ることを目的として、研究・調査事業を行っています。2026年度に新たに実施する研究・調査課題については、2025年度研究・調査企画会議事前・中間評価部会での審議を経て、食品安全委員会において決定しました。

■2026年度新規研究課題

- ・小児期におけるビスフェノール類曝露が健康に及ぼす影響の疫学的評価
- ・食品健康影響評価における新たなアプローチによる評価方法 (NAMs) データを活用したウェイトオブエビデンス (WoE) 評価の体系化に関する研究
- ・PFAS の曝露源及び体内動態解明のための介入試験による試行的調査
- ・ヒト肝細胞キメラマウスを用いたPFASの消失半減期予測とリスク評価
- ・国際的規制原則に資する、代替タンパク質の機能的アレルギー性評価と加工によるリスク変動解析
- ・レンサ球菌を原因とした集団食中毒事例リスク評価のための基盤形成に資する研究〔若手枠〕
- ・食品中に含まれるマイクロ・ナノプラスチックの体内動態解析手法の開発〔若手枠〕



2024年度から食品健康影響評価を担う若手専門家の育成枠を開始しました！

■2026年度調査課題

農薬リスク評価に関する海外状況調査

研 究



調 査



これまでの研究及び調査の報告書等は
こちらをご覧ください。

食品健康影響評価技術研究成果発表会（2024年度終了分）

2024年度に終了した研究課題について、その研究の成果の普及及び活用を促進することを目的として2026年3月2日に、成果発表会をオンラインで開催しました。

食品関連化学物質のリスク評価におけるリードアクロス手法の適用と信頼性評価に関する研究

山田 隆志 | 国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部 部長

アレルギー誘発性を有する植物に由来するタンパク質の網羅的消化性評価

児玉 浩明 | 千葉大学 大学院園芸学研究院 先端園芸工学講座 教授

研究成果紹介

食品に含まれるトランス脂肪酸の摂取量推計に係る研究（2023-24年度研究事業）

トランス脂肪酸について、食品安全委員会は、2012年に日本の通常の食生活ではWHO勧告基準（総エネルギー摂取比1%）未満で健康影響は小さいと評価しています。この評価から10年以上が経過しており、食習慣の変化や諸外国での食品からのトランス脂肪酸排除の取り組みの進展を踏まえ、食品中トランス脂肪酸の含有量実態調査と日本人のトランス脂肪酸や飽和脂肪酸の摂取量推計の研究を行いました。

その結果、トランス脂肪酸の一日摂取量の総エネルギー摂取比は、男性の平均値（中央値）で0.29～0.39%

（0.21～0.34%）、女性で0.33～0.40%（0.24～0.36%）でした。年齢区分別では7～14歳の値が高い傾向にありますが、WHOが推奨する総エネルギー摂取比1%未満を大きく下回っていることが確認されました。95パーセンタイル値でも、女性の20代を除きすべての年齢層の男女で1%を下回っていました。また、加工食品等のトランス脂肪酸含有量が総じて低くなっていました。

報告書詳細は
こちらから↓

